

沿線まるごと株式会社と共同で取り組む 奥多摩地域における地域資源・課題の発見

総合政策学部教授 三浦秀之

1. 背景と活動目的

総合政策学部の三浦研究室では、JR東日本株式会社と地方創生のリーディングカンパニーの株式会社さとゆめが設立した「沿線まるごと株式会社」と共同で、奥多摩地域の活性化に向けた取り組みを実施してきた。同社は、奥多摩地域に点在する地域資源を編集し、駅とその周辺にある集落を一つのホテルに見立てた観光計画を現在構築している。とりわけ、2022年6月に、JR青梅線の「鳩ノ巣駅」駅舎（無人駅）を改修し、地域にイノベーションを起こす拠点となる「沿線まるごとラボ」を開設した。

そうした中で、三浦研究室では、奥多摩地域の活性化のために、同社との共同プロジェクトを立ち上げ、同ラボを拠点として、学生たちが魅力的な地域資源を発掘し、同社が掲げる「地域と“つながる”」「地域で“うみだす”」「地域を“うごかす”」ために、どのような企画が考えられるのかを検討し、最終的にその内容を報告及び提言することが目的である。

2. 活動内容

2月12日（水）～2月28日（金）の春期長期休暇の中で、平日5日間通い、沿線まるごと株式会社と共同で、学生たちを中心に、奥多摩地域に住まい、商いをする方たちに集中的にヒアリングを行い、地域資源のさらなる発掘をするための取り組みを実施した。

学生たちは、JR青梅線鳩ノ巣駅にある「沿線まるごとラボ」を拠点に、地域住民や商店の方々にヒアリング活動を実施し、地域資源のみならず地域課題の発見に努め、そうした課題に対して解決策を練った。最終的に沿線まるごと株式会社に報告を実施した。



奥多摩町にあるワサビ田を視察させていただいた時の様子



地域の方々にモニターツアーに参加いただき、今後のボランティアに関わっていただくことをご検討いただいた時の様子



地域総合研究所フォーラム2025の発表の際の様子

沿線まるごと株式会社とは

沿線まるごと株式会社の取り組みは、「ツーリズムEXPOジャパン」（主催：公益社団法人日本観光振興協会、一般社団法人日本旅行業協会、日本政府観光局）が開催する「第7回 ジャパン・ツーリズム・アワード」において、最高賞である「国土交通大臣賞」と「学生が選ぶジャパン・ツーリズム・アワード賞」の2部門で受賞している。

3. 成果

2025（令和7）年3月10日（月）地域総合研究所フォーラム2025『企業×自治体×総合大学の連携で織りなす「杏林型ウェルネスツーリズム」の発展と意義』において、総合政策学部2年生の向山さん、依田さんが「沿線まるごと株式会社と共同で取り組む奥多摩地域における地域資源・課題の発見」と題し、実際に奥多摩の地やSatologue.の施設を巡り、名産品であるわさびをテーマにしたツアー体験を通して気付いたこと、奥多摩町の観光課題、課題に対するアプローチ・提案とその根拠を発表した。